

平成 17 年度 事業計画（案）（委員会活動）

（平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで）

（ 1 ） 全体活動

従来のデジタルレコーディング委員会とデジタルコンテンツ推進委員会を統合して、A M E I の、且つ市場の現状に即した活動をすべく、新たなデジタルコンテンツ委員会に名称変更する。

尚、以下各委員会活動は、定款、（事業）第 4 条の各項に順ずるものとする。

（ 2 ） 製品安全・環境委員会

1 活動方針

電子電気楽器及び関連機器の安全、環境保全に関する技術、法律、諸規格に関する諸問題の調査研究を実施し、両部会が主体性を持って推進し、会員各社の専門知識や技術向上を目指すものとし、もって電子電気楽器及び、関連機器市場における更なる製品の信頼性を向上・確保することで関係会員企業の事業安定化に寄与することを目標として継続した活動をする。

2 委員会活動

本趣旨を全うすべく、改めて本委員会（2 専門部会）に参加される会員会社を募り、全体活動をより活性化すべく新規委員の勧誘方法等を検討し諸準備をする。

3 安全規格部会

- ・年 6 回の部会活動の実施
- ・自主依頼試験結果からみる設計上の注意ポイントの抽出
- ・E M C -01 の見直と再構築

4 環境問題研究会

- ・容器包装リサイクル法の改正についての動向調査の実施
- ・欧州 WEEE & RoHS 指令の施行状況確認

（ 3 ） M I D I 規格委員会

< 活動方針 >

年間 6 回の幹事会を開催し、諸テーマの検討、審議をする

1 前期からの継続テーマの検討と結論付け

2 M I D I 規格の応用分野で、会員会社から提案されている音楽演奏と同期した映像制御コマンドと、一方で今後市場拡大が期待されている”Robotics”分野での応用・利用形態とあわせてその汎用規格化を検討する（仮称 VGR Prjct）

尚、運営の詳細は新年度初回幹事会のテーマとして検討を開始する。

注）VGR = MIDI with Visual, Gesture & Robotics (仮称)

3 M I D I 規格の立ち上げ初期に設定された現在の M I D I 規格のメーカーID 管理体制の見直しの必要性の是非とその手法等について、A M E I 側の見解をまとめ MMA と必要なる協議をする

4 モバイル業界をターゲットとして、M I D I 関連の諸規格をまとめ、関連企業を対象として A M E I の諸活動の紹介等の材料とする

5 米国での M I D I 検定の実施について、MMA 側の具体的な問題点の解決手法等について検討する。尚本件の実現にむけて、M I D I 規格委員会は全面的に M I D I 検定委員会に協力する。

(4) 著作権・ソフト委員会

<活動方針>

年間 11 回の委員会を開催し、諸テーマの検討、審議をする

- 1 著作権管理事業法に関して本法律の制定に伴い発生した問題点等を解決すべく関係団体とも協力し、文化庁に対する活動を従来以上に活発化させる。又、著作物の包括的利用に関する権利処理問題に関しては有識者等も巻き込みながら、積極的に文化庁等関係省庁・団体への活動を強化する。
- 2 定例会を通じ、各部会の取り組み課題、管理事業者との協議状況をタイムリーに提供し、会員の意見を吸収、部会活動に反映させることにより活発な活動にする

<部会活動>

1 カラオケ部会

JASRAC 他、管理事業者と使用料規定の見直し協議を行う。又著作権管理事業法の問題点を解決すべく関係団体と協力し文化庁等に働きかける

- ・株式会社ダイキサウンドとの契約内容の見直し
- ・JASRAC 使用料規定第 11 節「業務用通信カラオケ」の見直し協議
- ・JASRAC 使用料規定第 14 節「その他」の問題の協議

2 インターネット・モバイル部会

JASRAC 等管理事業者との協議により、音楽配信事業の正当な権利料とコンテンツのセキュリティーを高める事業体系を目指す。

- ・NMR C 活動による著作権管理事業者との協議
- ・ストリーム等包括許諾事項の管理事業者別著作権料の按分
- ・セキュリティーに応じた音楽著作権利用料の確立
- ・放送コンテンツ等複数の権利者が存在するコンテンツの 2 次利用の配信における権利料の規定づくり

3 ソフト規格部会

マルチメディア、ソフトウェア、コンテンツを軸とした各種調査、研究を通じ、MIDI、音楽電子事業の活性化、普及、標準化活動を行う。

- ・WG による諸問題の討議、検討、規格化と実践
- ・楽器内臓コンテンツ等の保護に関する検討WG (GCP-WG)
- ・楽器内臓表示器を利用した楽譜表示の権利処理に関する WG(DMN-WG)

著作権・ソフト委員会 年間定例会スケジュール

回数	開催予定日	開催時間	備考
1	平成 17 年 4 月 14 日	13:30 - 15:00	
2	平成 17 年 5 月 12 日	13:30 - 15:00	注 2
3	平成 17 年 6 月 9 日	13:30 - 15:00	注 2
4	平成 17 年 7 月 14 日	13:30 - 15:00	
5	平成 17 年 9 月 8 日	13:30 - 15:00	
6	平成 17 年 10 月 13 日	13:30 - 15:00	
7	平成 17 年 11 月 10 日	13:30 - 15:00	
8	平成 17 年 12 月 8 日	15:30 - 17:00	会議終了後忘年会
9	平成 18 年 1 月 12 日	13:30 - 15:00	
10	平成 18 年 2 月 9 日	13:30 - 15:00	
11	平成 18 年 3 月 9 日	13:30 - 15:00	

注 1：本年度のセミナーは従来の担当部会制を廃し、希望企業会員による随時開催とする。

注 2：5 月、6 月は岩波セミナールーム工事のため、会場は別途設定する。

尚、委員会体制は現在の体制を継続する。

(5) 透かし推進プロジェクト

<活動方針>

AMEIが提供する「標準MIDI電子透かし」(第一層)埋め込みツールである”MIDIsign”を用いて会員企業が ISMC 規格のより幅広い応用・利用を促し、且つMIDIデータ作成販売における権利保護仕組みを構築する。

本透かし技術の利用によりデータの違法複製抑止、並びに権利者からの円滑な許諾を獲得して業界の発展に貢献する。

<プロジェクトを構成する3ワーキンググループ>

1 技術WG

- ・第2層透かし技術を持った会員が登場した際の親和性の検討、又は検討手法自体の検討
- ・米国MMAとの技術面における説明と交渉
- ・技術及び開発面におけるメンテナンスと各社への支援相談

2 運用WG

- ・ISMC(仮称: International Standard MIDI Code)規格の普及運動
- ・Recommended Pattern (会員企業が自己管理するスペースのテンプレート)
- ・管理運用サーバーの維持運営

3 普及展開WG

- ・AMEI内の各委員会、部会との連携
- ・利用促進パンフレットの作成と契約促進活動の展開
- ・外部団体への情報提供と連携
- ・米国MMAとの交渉

(6) デジタルコンテンツ委員会

<これまでの経緯>

昨年までのデジタルレコーディング委員会と統合し新たにデジタルコンテンツ委員会として活動を開始する。

両委員会の成果の上に、現在及び今後の市場の状況を踏まえて両委員会の関係者で議論の結果、当初のデジタルレコーディング委員会発足当時のユーザーの様々な諸問題は現時点では既に解決され、本委員会の当初の目的は達成・解決された。と判断した。

<現在の市場について>

今後は更に一層“本来のコンテンツ”自体に焦点を合わせてサラウンド・サウンド或いは、マルチスクリーンによる映像の組み合わせ等に代表される、最近の市場・市況に的を絞った活動が望ましいと判断する。

<新委員会の活動ポイント>

上記の視点で両委員会の統合は必然的であると判断し、音を主体としつつ、MIDI規格を活用した音楽と各種映像との融合・包括且つ両者の有機的連携により、MIDI環境の上でのAMEIが提案できる新たなコンテンツ作成手法の提案に向けて、セミナー等により、AMEI会員各社への応用説明等を実施し、関連する知識向上・研究を推進すべく、新メンバーの参加をつのり、積極的な活動を進める。

(7) M I D I 検定委員会

< 委員会活動 >

昨年度の試験結果報告とその内容の検討、試験運用の合理化の手法を検討する

< 平成17年度 M I D I 検定試験 >

第8回 3級試験、第7回 2級筆記試験 実施日：平成17年12月4日

第7回 2級実技試験 実施日：平成18年 2月

4級認定 各講師養成講座、セミナー 実施日：年間随時開催

< 講師養成講座と講師認定 >

4級講師養成講座 4級教室展開の拡大による3級導入予備軍の拡大

3級講師養成講座 検定の中核をなす教育システムの充実

2級講師養成講座 M I D I 検定教育システムの頂点を構成

* 2級講師養成講座を新設し、2, 3, 4各級別講師資格認定制度とする

< 普及計画 >

音楽大学におけるM I D I 学習の普及に協力する

ピアノ、電子オルガン学習者への告知を徹底して実施する

3級、2級の各教室の展開、及び教室の開設と指導に協力する体制を作る

各種セミナーの開催

各種音楽専門誌への広告による告知・宣伝活動をする

応募者数、受験者数の拡大を目的とした具体的な方策を実施する

< M I D I 検定の海外での展開 >

韓国での導入のために、一連の各種資料を準備し早期の実現に結びつけるアメリカ他アジア以外の諸外国関係者へのアプローチの準備と実施を期す。

(8) 事業委員会

< 委員会活動 >

平成17年の秋に予定されている“楽器フェア”の活用方法・意義について検討する。

< 2005年度の楽器フェア概要 >

開催日：11月3日(休日)～6日(日)

会場：パシフィコ横浜

対象：楽器店、個人ユーザーの出展、アウトレットモール、カスタムビルダー

1 方針

楽器フェアの出展はA M E I の活動を伝える貴重な機会であり活用したい。

2 背景

通信カラオケ、携帯キャリアの用途開拓と同様に、今後も電子音楽の訴求、M I D I を使用したコンテンツの開発推進はA M E I の重要な事業である。

3 検討すべき諸要素についての考察

・Apple社の協賛は今回は不可能になった。

・Windows対応の各種ソフトベンダーは多数出展すると予測される

但し、現時点では未確認であるが、関係各社が何社出展するかは現在未定

4 楽器フェアへの参加によるAMEIとしての訴求ポイント

- ・ AMEIの中核である、MIDI規格の一般への正しい告知をさせる
- ・ 従来の音楽中心から、家庭内での映像機器との一体化制御等の実現手法として、その実例を簡潔に伝え、MIDI機器への興味を抱かせる。
- ・ MIDI検定試験の存在自体を、一般多数の入場者に認知させる好機会であり最大限活用すべきである。
- ・ モバイル機器ユーザーをも対象としてMIDI検定試験の効用をPRすべく関連するテーマでセミナー開催の企画等により会員獲得の一助とする。

(9) 広報委員会

<委員会活動>

外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広くアピールすると共に、会員に対する情報発信機能の充実により、会員の連帯感を強め、公益団体としての当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

- 1 会報「AMEI News」の発行
 - ・ 定期会報：年3回発行予定（4月、8月、12月）
- 2 ホームページの充実（事務局との連携により推進）
 - ・ 各委員会、部会、WG等の活動報告のページ
 - ・ 会員用ページ
 - ・ その他
- 3 楽器フェア2005での出展時の各種広報活動の実施
- 4 その他の広報活動を随時実施

以上